

仙北市に伝わる伝統行事・小正月行事

中里のカンデッコあげ



旧暦の1月15日に行われている、西木町中里塞之神の小正月行事「中里のカンデッコあげ(国記録選択無形民俗文化財・県指定無形民俗文化財)」が、2月9日に行われました。

カンデッコとは、朴の木で作った小型の鍬のことで、このカンデッコと、胡桃の木で作った男根を、しめ縄の両端に結んで一対にし、これを神木である桂(市指定天然記念物)に投げ



掛け、子宝や縁結び、豊作や家内安全などを願います。

うまく掛かると願いが叶うといわれ、また、神木から取り外されたカンデッコを持ち帰ると、ご利益があるともいわれ、それを栗や柿の木などに掛けると、多くの実を結ぶと言い伝えられています。

参加者は、それぞれの願いを込め、桂のより高いところを狙って投げ掛けていました。

なろか

田沢湖生保内地区に伝わる小正月行事「なろか」が2月9日、市役所田沢湖庁舎前駐車場で行われました。



当日は、正月に各家庭で飾られたしめ飾りなどをお祓いしたあとお焚きあげしました。

会場では、なろか保存会会員により、そばと揚げパンが訪れた皆さんに振る舞われました。

ホラ貝と太鼓が響き始めると、わら松明をもって会場を練り歩きながら、五穀豊穡と無病息災を願いました。



松葉・相内の裸参り

西木町松葉・相内地区に伝わる裸参りが2月15日に行われ、10人の若者が参加しました。



参加者は松木内川の清流で身を清め、わらで編んだ「けんたい」を腰につけ、白足袋にわらじ履きで、沿道からの声援を受けながら、かけ声勇ましく集落内を走り、一気に旭山を駆け登りました。

金比羅宮では、けんたいと結びひもを切ったわらじを神木に結わえつけ、無火災を祈願しました。

